

週刊新社会

11月27日 2018年号外 野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 150円 41円
 http://www.sinsyakai.or.jp/
 発行所：新社会党 E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

集中労働相談は 12月1日
 ~ 14日 裏面に詳細あり

危なかった東海第二原発巡る協定

東海第二原発の20年延長、再稼働を巡って、海野徹那珂市長は再稼働に反対する姿勢を周辺6市村として初めて明確にした。ところが山田修東海村長は「新協定は日本原電の発電事業を認めた上での協定」だとし、拒否権を否定。他方、水戸市、日立市、常陸太田市の市長は、海野市長と同様の見解を示して6市村の認識の違いが表面化した。

そこに「助け舟」を出したのが

日本原電の和智信隆副社長の「拒否権なんて言葉は協定のどこにもない」との発言。

「傲慢だ。許せない」と6市村長は謝罪を要求、「原電から再稼働の表明がないまま、対策工事をなし崩しに進めることはない。1市村でも了解しなければ再稼働はできない」という認識で一致した。

今日27日は同原発の稼働40年にあたる。千代田区の原電前では15時から抗議行動が行われる。

12月議会日程（予定）

期日	開議予定時刻	会議予定	主な会議内容
11月28日 水	10時	議会運営委員会	提出議案、請願・陳情の概略説明、議会日程の検討、他
12月4日 火	10時	本会議（開会）	会期の決定、議案上程、市政一般報告
11日 火	10時	本会議	議案質疑、委員会付託
12日 水	10時	本会議	一般質問
13日 木			
14日 金			
17日 月	未定	常任委員会	議案等の審査
18日 火			
21日 金	10時	本会議（閉会）	委員長報告、質疑、討論、採決

松伏町で物流センター団地計画阻止

江戸川を挟んだお隣、松伏町で住民が物流センター建設予定の工業団地計画を中止させた。

9月議会に町が工業団地化を表明し、12月議会で決定しようとしたこの計画に、とんでもないと立ち上がったのは新社会党の鈴木勉町議（2期目）一人。

しかし、この計画を鈴木議員が議会報告で知らせると、寝耳に水の当該地区の住民はびっくり。場所は町で有数の優良団地南側に隣接する農業振興地域の水田地帯。水田を挟んだ向かい側には中学校も

ある。鈴木議員は10日に一回関係ニュースを発行するとともに、住民運動の立ち上げに全力を挙げた。その結果、署名が始まり、町には反対のポスターが貼られ、計画に対するパブリックコメントには182人から意見が出され、ほとんどは反対だった。今月13日に開かれた総合振興計画審議会には85人の傍聴者が集まり、会場変更などで開会が遅れ、出席委員からの賛成は一人だけであとは反対。

これを受けて鈴木勝町長は20日、議会全員協議会で計画中止を表明。住民の完全勝利となった。

新社会党（日本社会党の基本政策を継承している政党）機関紙 週刊新社会号外 松伏町版 2018年11月23日 第4号（1面）

町政レポート つむ 行政の主権者は住民であるこの憲法理念に基づき活動しています

2018年11月23日 第4号（2018年10月号以降）松伏町議会議員（元町役場職員・介護支援専門員）鈴木つとむ（勉） 松伏町下赤岩2-3-9 電話&FAX 991-9898 携帯090-7634-5577

11/20 町長表明 ゆめみ野4丁目南側隣接地～松伏第二中学校間の工業団地計画

工業団地計画が中止に

パブコメ・署名運動・審議会傍聴など力発揮

反対世論の勝利

町民パワーで環境悪化と住民犠牲性止める 審議会委員の賢明判断も力に

議会全協で表明後、町長が住民団体に謝罪

11月20日、午後3時から町議会の全員協議会が開催され、町長から上赤岩工業団地計画の断念、中止決定が表明されました。中止に至った理由は、先のパブリックコメントで町民から182人、201件（大半が反対）の意見が寄せられ、11月13日に開催された総合振興計画審議会でも「変更を含めて慎重に検討すること」とした答申（2面に続く）

住民の皆様のご意見・ご要望をお寄せください。電話・FAXまたはe-mailで、tsutomu1933@yahoo.co.jp



相談無料

賃金・残業代未払い、長時間労働、労働災害、
低賃金、パワハラ・セクハラ、解雇・・・

秘密厳守

職場のあらゆる問題をご相談ください。

新社会党の労働相談

野田総支部	TEL 090-2639-8002	e-mail hiro-osanami@tbf.t-com.ne.jp
千葉県本部	TEL 043-244-6865	e-mail sinsya@lily.ocn.ne.jp
中央本部	TEL 03-6380-9960	e-mail honbu@sinsyakai.or.jp

太陽エネルギーを長期間保存できる物質 スウェーデン研究チームが開発

脱原発世界ニュース 11 月 17 日号によると、太陽光エネルギーを最大で 18 年も貯蓄できる太陽熱燃料 (solar thermal fuel) をスウェーデンの研究チームが開発したという。原発や化石燃料に依存しないエネルギー関連の研究が急速に進んでいる。以下要約して紹介する。

.....

太陽熱燃料は物質を日光にさらすことで分子の形態を変形させ、蓄エネルギー材料として利用可能にするもの。エネルギーを長期保存することが可能で、触媒によって活性化させて熱を放出させるこ

とができる。これは家屋の暖房などに非常に役立つそうだ。

この燃料は炭素と水素、そして窒素の分子からできており、光を当てることにより分子構造を変化させることで、エネルギーをため込むことができる。

エネルギーを保持した分子は安定していて、化学結合も強いいため、20 年近くもエネルギーを貯蔵しておける。また、触媒によって元の化学物質に戻せば、熱となってエネルギーが放出される。

研究チームによると、触媒プロセスによって燃料の温度は 63℃も

上昇するという。仮に室温が 21℃ほどだった場合、燃料の温度は約 84℃まで上がることになる。この熱を住宅や商業施設の暖房に使えるというわけだ。

研究チームは、更なるテストと最適化のプロセスを踏めば、温度をさらに高めることが可能だとしており、成功すれば発電用にも使えることになる。実現に向けては課題も多いが、投資家らもこの技術に興味を示しており、10 年後には商業化できると研究チームは見ている。太陽熱燃料は太陽光以外の外部からのインプットは必要なく、再利用も可能だ。コスト的な観点から考えても、将来的に大きな期待が注がれる技術といえる。